

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：34419

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12937

研究課題名（和文）中山間地域における要支援高齢者のサポート・ネットワークの検討

研究課題名（英文）Support network of the elderly in hill rural area

研究代表者

齋藤 暁子 (Saito, Akiko)

近畿大学・総合社会学部・准教授

研究者番号：60780187

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、介護保険制度の再編による中山間地域の要支援高齢者のサポート・ネットワークへの影響について、自治体および地域の高齢者サロンへの半構造化インタビュー調査に基づいて検討した。その結果、福祉サービスが限定的である中山間地域では高齢者の高齢者サロンがフォーマルケア提供だけでなくインフォーマルなサポート・ネットワークとして主要な役割を果たすことが明らかになった。このため制度改正による公的なフォーマルケアの実質的な削減は、要支援高齢者のサポート・ネットワークをフォーマルだけでなくインフォーマルな側面でも縮小させる可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、中山間地域の自治体および地域の高齢者サロンへの半構造化インタビュー調査に基づいて地域特性と関連した高齢者のサポート・ネットワークの現状と課題を明らかにした。さらに研究期間内に新型コロナウイルスの感染拡大があったため、感染症の拡大による対人ケア活動の制限が中山間地域でのサポート・ネットワークに及ぼす影響の一端を検討することが可能となった。

上記の成果は今後過疎化が進む中山間地域でどのように高齢者のサポート・ネットワークを構築/維持していくかのための示唆となるだろう。

研究成果の概要（英文）：This study examined the impact of the reorganization of the long-term care insurance system on the support networks of elderly persons in need of assistance in mountainous areas, based on semi-structured interviews with local governments and local senior citizen salons. The results revealed that in mid-mountainous areas where welfare services are limited, elderly salons play a major role not only in providing formal care but also as informal support networks for the elderly. Therefore, the substantial reduction of public formal care due to system reform may reduce the support network for the elderly in need of assistance not only in the formal but also in the informal aspect.

研究分野：社会学

キーワード：高齢者福祉 中山間地域 サポート・ネットワーク

1. 研究開始当初の背景

2000年の介護保険制度の導入は、高齢者向けフォーマルケアの多元化をもたらした。さらに、地域包括ケアシステムを強化するために行われた2014年の制度改正によって、要支援高齢者への在宅サービスは介護保険制度の対象外となり、インフォーマルケアも想定される自治体の地域支援事業に組み込まれることになった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、このような制度改正によっておこるフォーマルケア・インフォーマルケアの再編成が、ケア資源の乏しい中山間地域に住む高齢者にどのような影響を与えるのかを、高齢者自身のサポート・ネットワークから明らかにすることである。

中山間地域の農村部である島根県A市を対象に、制度改正の影響を最も受けると考えられる要支援高齢者に着目して、フォーマルケア・インフォーマルケアの再編の状況を把握するとともに、再編もたらずサポート・ネットワークへの影響を質的アプローチから検討した。

さらに、研究当初の上記の研究目的に加え、研究期間中の新型コロナウイルスの感染拡大がどのようにフォーマルケア・インフォーマルケア、および高齢者のサポート・ネットワークに及ぼすのかについてもあわせて検討を行った。

このような試みは、高齢者の視点からフォーマル・インフォーマルが連携した多角的な地域包括ケアシステムの可能性を探ることにもつながると考えている。

3. 研究の方法

本研究は、中山間地域の地域特性と関連した高齢者のサポート・ネットワークを明らかにするものである。具体的には、【研究1】・【研究2】・【研究3】の三段階で研究を行った。

【研究1】高齢者のサポート・ネットワークの地域間比較

先行研究や既存のデータから、研究対象の地域と他地域の高齢者のサポート・ネットワークを比較し、地域特性とサポート・ネットワークの関連を検討した。文献研究として、サポート・ネットワークの地域間比較および中山間地域の福祉などに関する文献収集と文献の検討を行った。

【研究2】A市の介護保険制度改正後の制度状況の把握

本研究の対象地である島根県A市において、介護保険制度の改正によって高齢者へのフォーマルケアがどのように変化したについて、自治体の資料収集および自治体や地域の支援団体の関係者へ半構造化インタビュー調査を実施した。

【研究3】高齢者のサポート・ネットワークの検討

中山間地域のA市の高齢者のサポート・ネットワークについて、A市高齢者サポート・ネットワークの変化について検討するため、A市で行われた要支援高齢者の生活状況にかんする調査の二次分析を行った。次に、高齢者のフォーマルケア・インフォーマルケアの両方の側面を持つ地域の高齢者サロンに着目し、担当者および複数の高齢者サロンの代表者、参加者である高齢者への半構造化インタビューを実施した。

尚、研究開始当初予定していた要支援高齢者への量的調査については、新型コロナウイルスの感染拡大により実施が困難となったため、研究計画・方法について質的調査を中心とするものに一部変更した。

4. 研究成果

本研究は、中山間地域の地域特性と関連した高齢者のサポート・ネットワークについて、以下の成果が得られた。

【研究1】高齢者のサポート・ネットワークの地域間比較

文献検討の結果、先行研究から中山間地域の農村地域のような既存のコミュニティが機能している場では、高齢者のサポート・ネットワークが都市部よりも豊かである可能性が示唆された。

一方で、中山間地域の要支援高齢者が利用できるフォーマルケアは、都市部と異なり公的な提供が中心であり、民間やNPOなどの提供が制限されている傾向がみられた。

【研究2】A市の介護保険制度改正後の制度状況の把握

本研究の対象地である島根県A市において、介護保険制度の改正によって高齢者へのフォーマルサポートがどのように変化したのかを、資料収集および自治体や地域の支援団体の関係者へ半構造化インタビュー調査から検討した。

調査の結果、A市でのフォーマルケアについては公的組織である自治体と事業を委託されて実際のサポートを担当する準公的組織である社会福祉協議会によって担われていた。制度改正によって、自治体が主体となっていた要支援高齢者への支援プログラムがいくつも廃止されるなどの影響がみられた。直接高齢者を支援する社会福祉協議会では、既存のインフォーマルネットワークが弱まるなかでの支援プログラムの重要性や要支援高齢者のニーズを把握しており、支援の実質的な削減にジレンマを感じていた。

【研究3】高齢者のサポート・ネットワークの質的検討

A市高齢者サポート・ネットワークの変化について検討するため、A市で行われた要支援高齢者の生活状況にかんする量的調査の二次分析を行い、さらに地域の高齢者サロンの担当者および複数の高齢者サロンの代表者、参加者である要支援高齢者への半構造化インタビューを実施した。

調査の結果、農村部であるA市でも既存のコミュニティでのネットワークが脆弱化しており、高齢者サロンなどの公的なフォーマルケアは、単なるケア提供だけでなくインフォーマルなサポート・ネットワークの構築と維持に貢献していることが明らかになった。特にフォーマルケアの中でも高齢者サロンは、要支援高齢者本人からも支援者からもインフォーマルなサポート・ネットワークの主要な要素としてとらえられていた。

さらに、新型コロナウイルスの感染拡大で高齢者の対人コミュニケーションの機会が減少する中で、高齢者サロンのインフォーマルなサポート・ネットワークとしての機能が孤立しがちな高齢者（特に単身高齢者）の支援として重要性を増していることが明らかになった。ただし、高齢者サロンが高齢者のサポート・ネットワークとして機能するかどうかはコロナ感染拡大以前の活動やキーパーソンの働きかけに依存しており、活動自体が活発でなかったサロンや、キーパーソン不在のサロンにおいては、コロナ禍を契機に活動自体が制限されており支援には至っていなかった。

以上から、A市の要支援高齢者のサポート・ネットワークは、提供されているフォーマルケアの状況に影響を受けていることが明らかになった。高齢者サロンのような要支援高齢者へのフォーマルケアは単なるケア提供だけでなく、高齢者同士の交流や安全確認の場となっており、制度改正による公的なフォーマルケアの実質的な削減は、要支援高齢者のサポート・ネットワークをフォーマルだけでなくインフォーマルな側面でも縮小させる可能性がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------